

県庁舎跡地活用検討懇話会（少人数グループ別意見交換）

グループC 結果概要

1 日 時 平成25年3月5日（火）15時00分～17時00分

2 場 所 長崎県庁第2別館2-A B C会議室

3 出席者 荒木委員、扇委員、小松委員、田川委員、竹本委員、林委員、
本田委員、武藤委員、村木委員（9名）

4 意見交換結果

○観光情報拠点について

- ・祭りなどを映像で見れて、そこに行かなくても情報共有できるものが必要。
- ・観光に関する全ての情報が得られる場所にしては。（例えば「さるくホール」と題して、さるくに関するすべての情報が見られるなど）
- ・展望や食事ができ、観光情報も発信していて、そのスポットに行くルートも分かり、どこに行けば買い物ができるかの情報も得られるような場所がよい。
- ・さるくの文化を生かしてさるく関連のものにしてはどうか。
- ・観光情報拠点が成立するか疑問。皆本物が見たくて早くその場所に行きたいのでは。
- ・観光情報はスマートフォンでしか見ない。旅先の観光情報センターに行ったりしない。
- ・観光情報拠点とは何かというところが人それぞれ違うので、整理してみてもどうか。

○集客性、回遊性について

- ・県庁があったときと同程度の人が集まるものが必要。
- ・出島と一体的な集客施設をつくり、そこから雨に濡れずに商店街に行ける地下道がつながれば。（跡地周辺の環境整備も重要）
- ・人の流れの作り方が重要。商店街などに人を流す役目を持たせては。
- ・主役は地元の人であり、地元の人がこの場所に住みやすい、面白い、

心地いいと感じることが大事。そうなれば、観光客も自ずと来るようになる。

○出島との一体性について

- ・ 出島復元との一体性は重要で、これを考えないわけにはいかない。
- ・ 出島の延長線として、現代の出島の仮想空間が見られるようにしてはどうか。
- ・ タワーではなくてもよいので、出島へのビューポイントは必要。

○展望機能について

- ・ コンパクトでも良いので、風景、夜景が楽しめる場所が必要。
- ・ オペラハウスのように、外から見てすぐ分かるようなものがよい。

○公園・広場について

- ・ 公園と観光情報拠点、おまつり展示を組み合わせるとはどうか。
- ・ 広場の中に質の高い施設（50名から200名程度が入る会議室など）をいれていけばよいのでは。
- ・ くつろげる公園があり、風景が見える場所があり、美味しい食事も食べられるような場所がよい。
- ・ マルシェなどの市がたつような広場にするとどうか。

○ホール機能について

- ・ 過度に贅沢でなくてもよいので、使い勝手のよいホールがほしい。

○交通機能について

- ・ この場所に大きなバスターミナルをつくるのは無理だと思うが、結節点は必要。機能を駅だけに集中させず分散させることも必要では。
- ・ 観光バスのバスベイや駐車場は必要だが、大きなものは必要ない。
- ・ 新地の長崎バスターミナルの老朽化の問題と同時に考える必要があるのではないか。
- ・ 交通結節点になると、逆に人は周りに散らなくなる。
- ・ 市の西と東の交通アクセスが非常に貧弱なので、繋ぐ機能が必要。（県庁前の通りを6車線にしてはどうか。）

○建物の建て方について

- ・ 複合施設をベースにすべき。
- ・ 大きな物を作るのではなく、質のいいコンパクトな本物が必要。

- ・ 20年、30年のスパンの中で、必要な機能を考えていった方がよい。（老朽化した建物が多い中華街や長崎バス本社周辺を開発するとき、その機能をどうするかも検討が必要。）
- ・ このまちも動いていくので、フレキシブルに使える（変化がきく）ものがよい。

○その他の意見

- ・ 石垣は全てを残す必要はない。
- ・ 大きな施設を復元する必要はない。
- ・ 贅沢な施設を作ってもよいのでは。1つくらい誇れるものがあつた方がよい。
- ・ 今後の長崎の地場力をどう高めるか議論が必要。
- ・ 多面性ばかり追及しているが、メモリアル性を追及しなくてよいのか。
- ・ この場所は着飾っていくところの方がよい。
- ・ どういうスキームで事業を進めるのか（県の事業か民間主体か等）から考えてみてはどうか。